新図書館等複合施設の活用をみんなで考えるワークショップ（全５回）

＜第２回＞「子育て支援と子ども」実施記録

1 開催日時：2024 年 10 月 12 日（土） 14：00～16：00

2 開催場所：妙高市役所１階 コラボホール

3 参加者：22 名

4 スケジュール

時間	内容
14：00 ～ 14：10	開会
14：10 ～ 16：00	グループワーク ①ワークショップの進め方 ②グループディスカッション ③グループ発表

5 ワークショップの内容

（1）開会（未来の図書館研究所）

→資料①②参照

・ワークショップとアクションプランについての説明

・講演予定であったアドバイザーの伊藤明美氏（（福）芳雄会 図書顧問・司書）が急遽入院したため、当初のプログラムから変更し資料の配布のみとなったことのお詫び

（2）グループワーク

●グループワークの進め方等について説明（ファシリテーター）

→資料③参照

・ファシリテーター（図書館パートナーズ 小田垣宏和氏）がグループワークの進行を担当

・ファシリテーターの所属するボランティア団体「墨田区ひきふね図書館パートナーズ」が実施したイベント企画の具体的事例を紹介（ぬいぐるみお泊り会、スーホの白い馬 馬頭琴演奏会、中学生ボランティア おもてなし課、中学生 落語会、声優科の高校生によるラノベ朗読会）

・グループディスカッションの進め方について説明（4 つのグループに分かれて意見交換のうえ「私たちの計画（企画シート）」に記入し発表）

●グループディスカッション・グループ発表

→４つのテーマのグループに分かれ、次の①～③の手順で意見交換のうえ、出た意見に基づき「私たちの計画（企画シート）」に記入のうえグループ発表

①入りたいテーマのグループを選び、模造紙と付箋で整理しながらディスカッション

②各グループ「ホスト」と呼ばれる１名を残し、他のメンバーは他グループへ移動し、「ホスト」による各グループでこれまで出た意見の説明後、模造紙と付箋で整理しながらディスカッション

③最初に入ったグループに戻り、出た意見をまとめて発表

A グループ：子どもをひきつける施設とは？そのために私たちができること
B グループ：多くの子どもたちに本に親しんでもらうためには？
C グループ：子育て家族に楽しんでもらうには？
D グループ：中高生世代をひきつけるためには？

内容は以下のとおり

【A グループ：子どもをひきつける施設とは？そのために私たちができること】

＜意見交換の内容＞

＜計画（企画シート）の内容と発表内容＞

	内容
計画（企画）名	**【計画（企画）1】子どもを引き付ける為のイベント開発** **【計画（企画）2】誰でも来れる図書館を目指して**
発表概要	●「子どもを引き付ける為のイベント開発」 　イベントがあればたくさんの人が来るのではないか。子どもが喜ぶイベントというと、本を楽しく読む環境と、子どもが来たくなるような朗読会。できれば 1 年分くらいプログラムを組んで楽しく朗読会をやれるような環境が必要。本だけでなく、絵を書いたり工作をしたり、そういう楽しめるイベントも重要。工作をしたら展示できる場所も必要。あとは、子どもは寝転がって楽しんだり、ひっくり返ったりしても安全な場所と、そのような椅子、ソファとかを準備する必要があるのではないか。読み聞かせのときに、簡単な演奏会などと連携するといいのではないか。小学生、中高生が入ると、いい企画が生まれる可能性がある。 ●「誰でも来れる図書館を目指して」 　市内の人たちは、来られるところもあるが、妙高高原などから図書館に来るのはハード

	ルが高いのではないか。市全域から集客するには何らかの手段が必要。例えば巡回モービル、つまりバスを１運行させるためにはどうするか。午前中は通院のためのバスを走らせ、夕方からは部活や塾にバスを走らせるとか、午後、特に小学校が終わった時間帯から図書館にバスを走らせるとか、１つのコースに対し１日運行できるようなルート設計が必要ではないか。お金もかかるので、いろんなデータの集積をしながら市で動かせるような取組みを考えよう。

【B グループ：多くの子どもたちに本に親しんでもらうためには？】

＜意見交換の内容＞

＜計画（企画シート）の内容と発表内容＞

	内容
計画（企画）名	**【計画（企画）1】本をつくろう！！** **【計画（企画）2】本の帯づくり** **【計画（企画）3】みんなが選ぶ好きな本ランキング** **【計画（企画）4】子ども参加イベント（みんな集まれ）**
発表概要	●自分の「本をつくろう！！」というイベント 親子で参加してもらい絵本をつくることによって気持ちもやさしくなる。 ●「本の帯づくり」 子どもが参加して、自分でつくって紹介するということができれば。 ●「みんなが選ぶ好きな本ランキング」 子どもたちがそれぞれ好きな本を投票し、今週の１位がこれだという感じ。お互いに本を紹介しあう。 ●たくさん案が出た「みんな集まれ」 子ども参加型イベントということで、読みきかせに合わせて、クイズ形式とか、こちらから投げかけて返してもらうような形。ただずっと聞いていると眠くなる子もいるので、子どもたちが食いつく、一緒になって参加できるものを考えたい。

【C グループ：子育て家族に楽しんでもらうには？】

＜意見交換の内容＞

＜計画（企画シート）の内容と発表内容＞

	内容
計画（企画）名	**【計画（企画）1】居ごこちの良い図書館、飛び出す図書館** **【計画（企画）2】市民のアイデアで楽しい企画づくり** **【計画（企画）3】本の消毒機の導入（と、しくみづくり）**
発表概要	●「居ごこちの良い図書館、飛び出す図書館」 　子育ては悩みも多い。そんな親子が居ごこち良く過ごすためのゆるやかなルールづくりをする。人の優しさであふれるルール。妙高高原地域や妙高地域の方なども新図書館を使えるため、図書館が移動する。出前をするなど工夫する。どこでもどんな本があるか調べられて、住んでいるところの近くで借りて返せる仕組みが欲しい。親子が楽しいと思える環境を整え、敷居の低い図書館を目指す。実施場所は、妙高高原支所や妙高支所の図書室。園や学校、児童クラブ。新図書館は来てもらうほう。 ●「市民のアイデアで楽しい企画づくり」 　市民の趣味活動の発表の場でもある。親子の写真展、音楽と読みきかせ、コスプレ、絵本づくり、地元まつりとのコラボ。駐車場がイベント広場として使えるのでキッチンカーなどの出店。SNS 映えのする空間づくり、おすすめの本の紹介、各種団体の活動紹介、展示会の開催。子育て家族が楽しく過ごせる施設を目指す。毎月定期的にさまざまなイベントを実施するとよい。 ●「本の消毒機の導入（と、しくみづくり）」 　自宅に本をたくさん持っている方がいる。古いものもきれいなものもある。子育て世代が一番心配しているのは、赤ちゃん、子どもによる本の汚損。消毒機によって衛生面の課題が解消される。古本市や譲渡会にもつながる。

【D グループ：中高生世代をひきつけるためには？】

＜意見交換の内容＞

＜計画（企画シート）の内容と発表内容＞

	内容
計画（企画）名	**【計画（企画）1】市役所・民間を含めた総力戦** **【計画（企画）2】キャリア教育の場として活用**
発表概要	●「市役所・民間を含めた総力戦」 ●「キャリア教育の場として活用」 　新しい図書館ができれば中高生は勉強しに来る。本当に目的を持ってこの複合施設に来るにはどうしたらいいのかと問いを直して考えた。ボランティアなど具体的な話も出たが、中高生をめぐる現況を考えると、個別最適化が学習指導要領でもうたわれ、高校生はポートフォリオに自分の学びの蓄積をはめていきながら大学受験に臨む仕組みになりつつある。この施設もそういうキャリア教育の一環を担えるところになれば中高生は行ってみようかとなるのではないか。 　キャリア教育は幅広い。われわれ民間が集まっているような人たちだけで考えるようなことだと、小さな居場所しかつくれない。イメージは富士山。360 度から山頂に向かって進むことができる。例えば南側を民間が、北側を行政がサポートするという考え方はどうか。 　どうやったらよりキャリア教育とのかかわりをつくれるか。民間軸があり行政軸がある。自分たちがやっているリアルな仕事を、どう図書館を通じて中高生たちにアピール、共有、継承していけるか。そんななかから事業は生まれてくるのではないか。

第 2 回ワークショップの様子

▲ファシリテーターの所属ボランティア団体の事例紹介

▲グループワークのやり方の説明

▲グループディスカッションの様子

▲グループ発表の様子